



### 北田町のスクランブル交差点（現在の国道 269 号線）



昭和47年頃



昭和45年、北田町に県内初となるスクランブル交差点が誕生しました。左上に写っているのはバスセンターで、2階には当時大流行したボーリング場がありました。その後近くにあったデパートの解体やバスセンターの移転に伴い、スクランブル交差点はなくなりましたが、今でも街のメインストリートになっています。



昭和を代表する電話である回転ダイヤル式電話、「黒電話」。昭和50年頃にほぼ全家庭に電話が普及しました。

明治23年、日本初の電話が東京・横浜間で設置されました。当時、電話はかけ放題でしたが、その使用料は月額で40円（現在の物価に換算すると約10万円）と高額でした。市内では、明治35年10月から電報と電話のサービスが開始。現在と異なり、個々の電話間で回線を繋ぐことはできず、電話交換手による仲介が必要でした。

昭和30年頃の鹿屋管内における市外電話は1通話3分単位で計算され、4分話しても2通話の6分の料金がかかっていたそうです。さらに距離に応じた料金体系で、道路を挟んだ真向いの家との電話料金が変わるということもあったため、不公平だと訴える声も相次

明治23年、日本初の電話が東京・横浜間で設置されました。当時、電話はかけ放題でしたが、その使用料は月額で40円（現在の物価に換算すると約10万円）と高額でした。市内では、明治35年10月から電報と電話のサービスが開始。現在と異なり、個々の電話間で回線を繋ぐことはできず、電話交換手による仲介が必要でした。

昭和30年頃の鹿屋管内における市外電話は1通話3分単位で計算され、4分話しても2通話の6分の料金がかかっていたそうです。さらに距離に応じた料金体系で、道路を挟んだ真向いの家との電話料金が変わるということもあったため、不公平だと訴える声も相次

携帯電話の普及と共に、公衆電話の設置台数は激減しましたが、近年では災害に強いということで見直され、現在市内でも主要な施設にはその姿が確認できます。

一方で公衆電話は、1通話10円で、市内通話は時間無制限でかけ放題だったため、長時間利用する人が続出し、苦情が殺到しました。そこで、昭和45年1月に、「3分通話が切れる」「3分打ち切り制」が導入されました。「（ポン、ポン、ポン）と2分30秒で打ち切り予報音が鳴るようになります」と、当時の市の広報誌は伝えています。

料金体系に変わりました。

いざことから、昭和37年9月に料金改定が行われ、全国どこでも市内電話と同じ基準で、30秒ごとに7円、その後1分単位で計算する料金体系に変わりました。



テレホンカード対応の公衆電話。市役所には昭和59年に設置されました。

電話をより使いやすく

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！